

**【第90回日本社会学会大会テーマセッションの提案(案)
(at 東京大学本郷キャンパス、2017年11月04/05日)】**

提案者・・・榎田美雄(神戸市看護大学、kashida.yoshio@nifty.ne.jp)

(1) 企画者関連情報

コーディネーター一名：榎田美雄(かした よしお)
所属：神戸市看護大学
連絡先：〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-4
神戸市看護大学
大学電話) 078-794-8074 (ダイヤルイン)
PHS) 070-5681-4143
e-mail) kashida.yoshio@nifty.com

(2) テーマ案と趣旨説明

社会学を基盤にした新しい専門職の可能性

★本テーマセッションの趣旨説明(報告者募集原稿案) =800字程度→877文字=

本セッションは、『理論と方法』31巻2号における江原由美子氏の提起(「社会学を基盤にした新しい専門職?」)を受けての企画である。

江原は、「社会においてまだ解決方法が制度化されていない社会問題領域において、当事者の声を聴き、社会関係調整や情報提供によって解決を図りつつ、その問題の深刻さや解決の重要性を社会に伝え」(江原2016:320)る仕事が現実に存在し、すでに社会学出身者が、そういう業務を行っているのに、資格がない、という問題を指摘している。そして、「社会問題分析という専門性に即して相談者の問題を明らかにできるようなソーシャルワークの仕事の確立が必要」(同)と訴えている。

つまり、既存の心理職とは違って、社会に働きかける職種。既存の福祉職とは違って、法的制度的支援が手薄であるために「心の悩み」と区別されないままになっている部分の問題解決に注力する職種。そういう職こそは、社会学を学んだものが見つかるべき職であるはずなのに、それに見合った資格がないことを憂えているのである。

企画者は、この憂いを共有する一方で、①このニッチ領域を対象とする専門職は本当に確立可能だろうか、②社会学は、この専門職を支える十分な実践力を持っているのだろうか、③この専門職カリキュラムの圧力は、学部や大学院の教育をどう変えるのか、等の不安をも感じている。

とはいえ、まずは不安ごと論じてみるべきだろう。「高校での『現代社会』の非必修化」等に見られる社会学の退潮傾向を考えれば、打てる手は打つべきだ。

以下に演題例を示した。この企画者の想像力を越える視角からの応募を歓迎したい。「『臨床社会支援士』の構想」「『社会調査士』の成功の背景と新資格に向けての教訓」「心理諸学会の資格認定実務の実際とその問題点」「臨床心理士&社会福祉士との差別化は可能か」「私はすでに“臨床社会支援”実践者—現場からの報告—」「紛争解決支援の新潮流と社会学」「臨床社会学から展望する新資格」「フェミニストソーシャルワークと新資格」「『社会学分野の参照基準』と新資格」「学会は職業人養成機関ではない」等。

(3) キーワードと使用言語

資格制度、社会学教育、専門職教育、ソーシャルワーク、臨床社会学、社会学の未来

使用言語は日本語